

～ひとりひとりが主役となる!!～

雲一つない澄み切った秋晴れのもと、今年度の運動会を開催しました。今年の運動会スローガンは「ハチャメチャ」。子どもたちはこの言葉通り、エネルギー全開でグラウンドを駆け巡りました。1～3年生の演技はとにかくかわいらしく、会場全体が温かな笑顔に包まれました。4年生の演技は息の合った動きがピシッと揃い、息をのむほどカッコ良かったです。そして5・6年生の迫力あふれる演技には、胸が熱くなり深く感動させられました。

全校児童31名という少人数だからこそ、徒競走やリレーでも一人ひとりが主役となり、最後まで決して諦めずに一生懸命走り抜く姿が印象的でした。

全校児童が心をつなげて創り上げたこの絆は、どこにも負けない本物の宝物です。温かい声援を送ってくださった保護者・地域みなさま、本当にありがとうございました。



～学力調査の結果から見てきた「メディア時間」と「学習」の深い関係～

1日当たりの使用時間	児童割合 (全国)	国語 平均正答率 (全国平均67%)	算数 平均正答率 (全国平均58%)
30分未満	11%	72% (+5)	64% (+6)
30分以上1時間未満	22%	71% (+4)	63% (+5)
1時間以上2時間未満	28%	69% (+2)	60% (+2)
2時間以上3時間未満	18%	64% (-3)	55% (-3)
3時間以上4時間未満	11%	58% (-9)	49% (-9)
4時間以上	10%	51% (-16)	42% (-16)

※上記の表は令和7年度全国学力・学習状況調査の1日当たりのメディア（スマートフォン、ゲーム機等）の利用時間と平均正答率の関係を表した表です。

※カッコ内の数値は全国平均値との差（ポイント）を表しています。

保護者の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、昨年度実施されました「全国学力・学習状況調査」の結果分析において、平日におけるスマートフォンやタブレットでの動画視聴・SNS、ゲームなどの「メディア利用時間」と児童の「学力（平均正答率）」との間に、明確な相関関係が見られることが報告されました。

具体的には、ゲームや動画・SNS等の利用時間が長くなればなるほど、各教科の平均正答率は低下する傾向にあります。特に、平日1日のメディア利用時間が長時間に及ぶ児童と、短時間（あるいはルールを守って利用している）児童とでは、正答率に小さくない開きが生じています。また、利用時間が長くなるにつれて家庭での学習時間が減少し、睡眠不足や就寝時刻の遅れといった生活リズムの乱れにつながっている実態も浮かび上がっています。

デジタル機器は現代の学習や生活に欠かせない便利な道具ですが、過度な利用は集中力の低下や睡眠の質の悪化を招き、お子様の健全な成長や学力向上に大きな影響を及ぼします。

つきましては、お子様の心身の健康と確かな学力を育むため、各ご家庭におかれましては以下の点につきまして再度ご確認ください、メディア利用のコントロールに向けたご協力をお願い申し上げます。

1. 家庭での利用ルールの再確認・作成

利用する時間帯（例：「夜〇時以降は使用しない」「食事中や勉強中は使用しない」）や1日の上限時間を、お子様と話し合って明確に決めてください。

2. 使用場所の工夫

自分の部屋への持ち込みを控え、保護者の目の届くリビング等で使用・充電するなどの工夫をお願いいたします。

3. 睡眠時間と学習時間の確保

メディア利用によって就寝時間が遅くならないよう、早寝・早起き・朝ごはんの基本的な生活習慣を徹底してください。

子どもたちが機器に使われるのではなく、主体的に正しく活用できるよう、ご家庭と学校が連携して温かく見守っていきたいと考えております。ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

～個人懇談でお子様の悩みを相談してください!!～

12月 個人懇談会